

平成 24 年 3 月 9 日
総 務 局

東京都防災会議「地震部会」（第 5 回）議事概要について

1 地震部会の概要

日 時：平成 24 年 3 月 2 日（金） 17：00～19：25
場 所：東京都庁第一本庁舎北塔 33 階 特別会議室 N 2
出席者：平田、翠川、佐竹、久田、加藤の各委員
醍醐危機管理監、村松総合防災部長、箕輪企画調整担当部長
保家震災対策担当課長ほか

2 議事概要

被害想定の見直しに関し、各委員から下記のとおり意見が出された。

<元禄関東地震の地震動モデルについて>

- 房総沖の小断層は津波を説明するために設定したものであるが、小断層を入れた方が、長周期地震動の振幅や継続時間が大きくなることから、安全をみて採用した方がよい。
- 長周期地震動のために採用したということを強調した方がよい。
- 元禄関東地震と大正関東地震では、元禄の方が、すべり量が多かったと言われている。しかし、元禄関東地震の発生は江戸時代で、被害実態が把握できていない場所も少なくない。

<立川断層帯地震について>

- 地震調査研究推進本部が計算した 2 つのケースでは、かなり震度分布に違いが出ている。今回の被害想定でも、破壊開始点の設定方法で震度分布が変わることを説明できる資料があった方がよいのではないか。
- より被害が大きいモデルで想定しているということは示した方がよい。そのために、破壊開始点の設定が異なる複数の震度分布を提示する方がよいだろう。

<津波浸水想定について>

- 各地点の最大津波高については、誤解のないように示すことが必要。
- 最大津波到達時間だけでなく、第 1 波の到達時間も記載すべきだろう。
- 防災計画を考える上では、最終的に浸水域がどこまで広がっていくのかは重要。浸水域の時間変化の結果を提示すべきではないか。

<火災延焼想定に用いる手法について>

- 採用する風速を領域ごとに変えるのは合理的でない場合がある。物理的に隣の場所であっても、区が変わると、そこで大きく結果が変わるということになる。一律の風速の方が理解し

やすいだろう。

- 都内の風速データに基づいて、平常時の想定風速を4 m/s、強風時の想定風速をその倍の8 m/sとする設定は納得できる。
- 強い風速が延焼速度に及ぼす影響についても検討すべきではないか。

<報告書の構成について>

- 対象地震の切迫性と位置付けについては慎重に記載する必要がある。
- 被害想定はその結果を使って今後の対策に役立てることが最も大事な点である。被害の悪いイメージが固定化するようなものでなく、都民がイマジネーションを発揮して、防災・減災対策を進めるのに役立てられるような報告書にするのがよい。

問い合わせ先
総務局総合防災部防災管理課
電話 03-5388-2537